

学校目標		「夢を育む学校づくり」～学び合い、認め合い、高め合う学校づくりを通して～										関係者評価		
中期目標	短期目標	成果・取組指標		自己評価								評価	関係者評価	
				保護者		地域		児童		教職員				
		指導の重点	評価の観点例	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	達成状況			
確かな学力を身につけ、考えや思いを伝え合い、学び合う子どもを育成する。	基礎学力を定着させる。	読み書き計算の指導を充実させる。	漢字や計算の反復練習を授業等の中で行う。	3.9	・学習の内容がよく分かり、基礎的な学力が身に付いている。 ・家庭学習の習慣が定着している。				3.8	・漢字が正しく書けていると思いますか ・計算が正しくできていると思いますか	3.9	・学級の実態に合わせ、書き取り会や計算会を繰り返し行ったり、配信システムプリントを活用したりして、反復練習を行い、当該学年の基礎的な内容は身につけてきている。しかし、学習内容の定着においては個人差も大きい。全校書き取り・計算テストをする等、全校体制で漢字・計算力の向上を図るための手立てを考えていきたい。 ・全保護者に家庭学習の大切さについて呼びかけたり、年3回、家庭学習がらばり週間を設定し、全校あげて家庭学習がらばりカードに取り組んだりしたこと、保護者の理解や協力を得ることができ、成果も上がった。	B	B
				3.8					・読書指導を充実させる。					
	4.0	・人の話をきちんと聴き、理解する力を育てる指導を充実させる。	4.0	・授業公開日の様子から、友達の見聞や先生の話をよく聞いて学習している。	4.3	・授業公開日の様子から、友達の見聞や先生の話をよく聞いて学習している。	4.4	・人の話をきちんと聞き、理解しようとしていますか。	3.3	・校内研究と絡めながら、自分の考えを表現するためのスキルを指導したり、それをもとにペアワーク、グループ活動、全体での話し合いなど、沢山の話し合いの活動を行ったことで、理由や根拠を明らかにして発表するなど児童の表現力が高まってきている。学級集団の中だけでなく、全校児童の前や地域の中でも自信をもって自分の考えや意見を発表できるよう、継続し指導していく必要がある。 ・人の話を聞く力や態度については、まだ個人差が大きい。また、他人の考えや意見を素直に聞き、認め合うとともに、受け入れたり、生かしたりしようとする姿勢が見受けられにくい児童もいて、話の途中で口をはさんだり、からかうような質問をしてきたりすることもある指導した。「いつでも」「どこでも」「だれにでも」真剣な姿勢で聞くことができるよう、日頃からの指導が必要がある。 ・理解力や読解力に欠けるため、正確に人の話が聞けない児童もいる。高学年では、「天声子ども語」ノートを活用し、語彙を増やし、要約する力を伸ばせるよう指導している。他学年でも実態に合わせ、理解力や読解力を高める工夫をしているが、今後も継続し取り組む必要がある。	C	C		
4.2	・場や相手を考えて表現する力を高める指導を充実させる。	4.2	・学校は、言葉で伝える力を育てようと努めている。 ・学校は、話し合う力を育てようと努めている。	4.5	・学校は、言葉で伝える力を育てようと努めている。 ・学校は、話し合う力を育てようと努めている。	3.6	・勉強中よく発表しますか ・自分の考えや思ったことを文章に書くことは好きですか	3.4	・学級朝礼時でのスピーチでは意欲的に表現できる。また、ワークシートを工夫したり、発表の仕方を指導したりするなど、きめ細かに指導・支援してきたことで、臆することなく自分の意見を言うことができるようになってきた。 ・練習してきたことは自信をもって発表できるが、その場に応じて、臨機応変に対応することには抵抗のある児童も多く、指導の工夫が必要である。 ・相手を意識して発表させることで、声の大きさや表情等、児童の表現力を高めていく必要がある。	C			C	
学校関係者評価	考 察		評 価		B	改善策等	・朝学習を見直したり、放課後学習会を設定したりして、基礎学力の定着や個人差に応じた指導を行っている。 ・人の話をきちんと聴き、理解する力を育てる指導を充実させるために、学年に応じた求める子どもの姿を明確にし、共通理解を図った上で、各学年の指導を行う。児童にも、年度当初「話す・聴く」については意識づけを行う。聴く指導については、共通した約束事(サインを示す)を決める。学習規律についても、ルールを確認し共通理解を図る。 ・場や相手を考えて表現する力を高める指導を充実させるために、渡津タイム等の全体の場で発表する機会を増やす。感想文や科学作品などで入賞した児童の作品を発表する機会をもったり、それを聞いて感想を発表したりすることで表現力を高める。					B		
	・漢字や計算への反復練習により、読み書き、計算は身につけてきていると思われる。しかし、個人差もあるので、個々の実態にあった学習も必要かと思う。 ・朝読書活動がしっかりと定着化されている。 ・教職員の努力は十分感じられるので、今後とも一番の努力点として、基礎学力の定着を進めてもらいたい。 ・人の話を聴く力や態度については、教職員の達成状況にもあるように、人の考えや意見を素直に聞き認め合うことや地域の人への態度等、まだまだ家庭での努力が必要である。		評価											

評価の段階 A:評価点4.5以上 B:4.0以上4.5未満 C:3.0以上4.0未満 D:2.0以上3.0未満 E:2.0未満 または A:非常に良い B:良い C:まあまあ良い D:課題がある E:課題が多く速やかな改善が必要

中期目標	短期目標	成果・取組指標		自己評価								関係者評価			
				保護者		地域		児童		教職員			評価		
				指標の重点	評価の観点例	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容			評価	達成状況
自分を見つめ、思いやりをもって行動する子どもを育てる。	自己有用感を高める。	積極的な生徒指導を推進する。	教育諸活動の充実を図り、児童の自己指導・自己教育力を高める支援を行う。	4.0	・学校は、自己有用感（自分はみんなの役に立っているという感じ）を育てる取り組みをしようと努めている。	4.0	・学校は、自己有用感（自分はみんなの役に立っているという感じ）を育てる取り組みをしようと努めている。	4.1	・あなたは、学校でまわりの人から大切にされていると思いますか	3.7	・運動会や学習発表会等の学校行事や、陸上大会、バスケット交歓会などの試合の場等を子どもに自信をつけさせる機会をとらえ、全教職員が協力して指導に当たった。 ・自己有用感の醸成をねらいとして、係・当番活動、委員会活動、掃除の指導等、集団の中で役立つ活動を積み重ねさせた。それぞれの活動にきちんと取り組めるようになってきている。今後、児童同士が互いに認め合えるような雰囲気づくりをさらに進めていきたい。 ・きちんと注意することが必要な場面も多々あり、毅然とした態度で指導してきた。児童の育ちを考え今後とも個に応じた指導・支援、集団への指導・支援を共通理解をしながら行っていきたい。	B			
		教育相談機能を高める。	定期的な教育相談を行い、また、必要に応じて個別の相談を行う。	4.1	・先生は子どもの様子をよく見ており、相談できる雰囲気がある。			4.0	・悩みを話したり、困ったときに相談したりできる先生がいますか	3.8	・生活アンケートや教育相談を定期的にして実施できた。それをもとに、全職員で共通理解を図り、個々の児童への声がけや支援、指導を積極的に行うよう心がけてきた。また、問題が発生した時には、個別にしっかりと話を聞き、安心して学校生活が送れるよう配慮してきた。 ・「お話タイム」の他に、児童の様子を見て、教育相談を実施した。 ・スクールカウンセラーを講師に、専門的な立場から児童理解や支援のあり方等について研修を受ける機会を設けた。研修で学んだ知識や技術をもとに、教師と児童との人間関係作りを努めてきた。自分の思いを述べやすいような学校・学級の雰囲気が培われつつあり、ほとんどの児童が学校生活を楽しくしている様子が見られた。 ・課題を抱える児童もあり、今後とも児童一人一人に真剣に向き合っていく必要がある。		B		
	よりよい集団をつくる。	学級経営の基盤に同和教育を据える。	4.2	・一人一人の子どもが大切にされている。	4.3	・一人一人の子どもが大切にされている。	4.3	・あなたは、友達の良いところを見つけてようとしていますか。	3.5	・あなたは、友達のことを考えた言葉づかいをしようとしていますか。	3.5	・終礼時に互いのよさや頑張りを伝える時間を設けたり、授業で互いに支え合えるようするなど、認め合い、励まし合いのできる集団づくりに努めた。また、認めあうことの大切さを折に触れて児童に話をしていた。 ・容姿に関する言葉や、TPOをわきまえない言葉が気になるので、年間を通して「あいさつ、言葉遣い」を生活重点目標に掲げるとともに、全職員で言葉遣い、友だちとのかかわり方などその場できちんと指導するよう努めた。しかし、まだ、「うざい」「きもい」「死ね」などの言葉を聞くことがあり、人間関係も固定しがちであるため、継続しての粘り強い指導と創意ある取り組みが必要である。	C		
	道徳の時間を充実させる。	年間指導計画に基づいて行うとともに、児童の実態を考慮して道徳的実践力を高める授業づくりに努める。			4.0	・学校は、子ども同士がその良さを認め合い大切にしようとする取り組みに努めている。	4.2	・学校は、子ども同士がその良さを認め合い大切にしようとする取り組みに努めている。	4.3	・悩みを話したり、困ったときに相談したりできる友達がいますか。	3.9	・道徳の時間にいろいろな意見を出して話し合うことは楽しいと思いますか。	3.6	・複数の副読本から、児童の実態や興味関心に合わせた教材を選ぶよう心がけてきた結果、道徳の時間への関心が高まってきたように感じる。 ・道徳の副読本や文部科学省刊行の冊子を活用し、自分の思いや考えを書く活動の時間を意図的、計画的に設けた。また、それをもとに友達と意見を交換しあう場や機会を確保したことで話し合いも少しずつ活性化してきたが十分とは言いがたい。道徳的価値を深め、道徳的実践力の育成へと結びつけていくために、さらなる道徳の時間の充実が求められる。	C
学校関係者評価	考 察			評 価		改善策等									
	<p>「お互いのよさを認め合い、一人一人を大切にしよう」気持ちはとても大切であり、差別をしない教育を基盤に据えた取り組みは素晴らしい。教職員の人間味ある優しさを感じ取ることができる。ただ、学校以外での様子を見ると、あいさつができなかったり、悪ふざけが過ぎる子どももいて、家庭教育のあり方が問われるように思う。</p> <p>・「人のために役立つこと」という意識づけではなく、思いやりの心や一生懸命にやった結果、人に喜ばれ役に立つという心が育ってほしい。</p>			B		<p>・職員会議や職員朝礼で生徒指導に関する報告をこまめに行い、指導内容や方法の共通理解を図り全校体制で指導に当たる。 ・特別支援コーディネーターの活用や個別の指導計画の作成により、課題を抱えている児童への対応を図っていく。 ・生徒指導の取り組みについて、柱を立てて年間を通し継続的に指導していく。また、取り組みの成果が見えるように工夫する。</p>									

評価の段階 A:評価点4.5以上 B:4.0以上4.5未満 C:3.0以上4.0未満 D:2.0以上3.0未満 E:2.0未満 または A:非常に良い B:良い C:まあまあ良い D:課題がある E:課題が多く速やかな改善が必要

中期目標	短期目標	成果・取組指標		自己評価								関係者評価
				保護者		地域		児童		教職員		
		指標の重点	評価の観点例	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	達成状況	
健康や安全に気をつける子どもを育てる。	望ましい生活習慣をつくる。	学校保健と食育を充実させる。	健康観察等の保健活動をきめ細かく行うとともに、学校給食を生きた教材に活用する。	4.3	・学校は、食生活・生活習慣づくりに力を入れている。	4.2	・学校は、食生活・生活習慣づくりに力を入れている。	4.1	・あなたは、栄養のことを考えて食事をすることがありますか 4.8 ・あなたは、毎日朝ごはんを食べますか	3.8	・食育に関しては、田植えや稲刈りなどの食に関する体験学習を行ったことで、食にかかわる人々の努力や工夫に気づくことができ、給食をしっかり食べる児童が増えた。 ・給食指導や栄養教諭とのTT指導による食に関する指導など、食育に力を入れて指導を行ったことで、食べ物を大切にしようとする態度が見られるようになった。 ・PTA主催の「お弁当の日」の実施などを通して食に対する意識は高まっている。朝食に対しても、ほぼ全員が食べてくなど朝食摂取の大切さに対する意識の高さがうかがえた。	B
		体力、運動能力を向上させる。	児童の実態に合わせ、生涯にわたって運動に親しめるよう、各運動の特性を味わわせ、運動への興味関心を育てる指導を行う。	4.0	・学校は、体力作りに力を入れている。	4.1	・学校は、体力作りに力を入れている。	4.1	・天気の良い日は外で遊ぶようにしていますか 4.8 ・体育や体を動かす遊びは好きですか。	3.7	・放課後の完全下校までの時間や昼休みなど、元気に外で遊ぶ姿が見られた。 ・陸上練習、水泳指導、業間なわとびなど実態に合わせて指導し、児童の能力も高まってきていると思う。 ・体育科授業では、どの子も意欲的に運動に取り組んだ。 ・トラックのラインや砂場等の運動する環境を整備するなど、児童が運動に取り組みやすい環境作りを進めた。 ・全校マラソン等に取り組むなど、全校規模での体力づくり、運動の習慣づくりについて一考の余地ある。 ・頑張りカードを作成するなど、児童が目標を持って意識的、意欲的に運動に取り組めるよう手立てを工夫していきたい。	C
危機回避能力を向上させる。	学校安全を充実させる。	学校安全(安全管理、安全教育)について年間指導計画に基づいて行う。	4.2	・学校は、避難訓練や防犯に対する取り組みをしている。 3.6 ・子ども達は交通ルールをよく守っている。	4.4	・学校は、避難訓練や防犯に対する取り組みをしている。 4.3 ・子ども達は交通ルールをよく守っている。	3.9	・自分の登校路などにある「110番の家」や危険な場所を知っていますか。	3.9	・長期休業前の全校集会を活用し、生徒指導部を中心に、生活の中で起こる様々な危険な行為に対する指導を劇化し具体的に分かりやすく行うよう心がけた。また、いろいろな場面を想定して避難訓練を実施することで、児童や教職員の危機対応能力や安全に対する意識の高揚が図られたと考える。 ・定期及び随時の安全点検で早めの対処を心がけた。また、不注意による怪我は、その都度指導したりすることで事故などが減ってきたと思う。	C	
学校関係者評価	考 察			評価		改善策等		・全校での体力づくり(マラソン、縄跳び等)を委員会活動と連携して取り組む。 ・様々な場面での危険について、児童に情報を与え、考えて行動できるようにする。				B

評価の段階 A:評価点4.5以上 B:4.0以上4.5未満 C:3.0以上4.0未満 D:2.0以上3.0未満 E:2.0未満 または A:非常に良い B:良い C:まあまあ良い D:課題がある E:課題が多く速やかな改善が必要

中期目標	短期目標	成果・取組指標		自己評価							関係者評価		
				保護者		地域		児童		教職員			
				評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価	アンケート内容	評価		達成状況	
保護者・地域との連携を深める。	開かれた学校づくりを推進する。	保護者や地域への情報発信に努める。	学級だより等で児童の様子を伝える。	4.4	・学級便りや学校だよりで学校の様子や方針を伝えるよう努めている	4.6	・学級便りや学校だよりで学校の様子や方針を伝えるよう努めている			3.7	・学年により頻度にはらつきがあったが、学級だよりや連絡帳等により、学習の進め方や児童の様子を定期的に伝えることができた。 ・必要に応じて、家庭や地域への情報発信を行っている。地域の方が早めに情報を知りたがっておられることがあるので、早め早めに準備できると良いと思う。	B	B
		学校関係者評価を充実させる。	評価のための具体的情報を伝える。							3.7	・学校便りによる日頃の情報提供や、学習発表会などの行事をはじめ、学校公開日等の積極的な案内など、関係者への働きかけが、継続的に行われた。 ・学校支援地域本部事業などの活用により、地域の方が学校へしっかり関わって頂いている。	B	
	ふるさと教育を推進する。	地域の「ひとものこと」の活用を図る。	授業等において地域の教育資源を積極的に活用する。	4.5	・地域へ出かけた時、地域の人を招いたりする学習に、積極的に取り組んでいる	4.4	・地域へ出かけた時、地域の人を招いたりする学習に、積極的に取り組んでいる	4.2	・学校の先生以外の人や地域の人の勉強は好きですか 4.7 ・今、自分が住んでいる地域は、良いところだと思いますか	4.1	・地域の方に読み聞かせや授業に関わってもらうことで、人と関わる力をつけることができた。 ・年間指導計画に基づいて、生活科、社会科、クラブ活動、総合的な学習の時間等で地域に出かけたり、地域の方に来校いただいたりするなど、地域の恵まれた教育資源「ひとものこと」の活用を積極的に進めることができた。その結果、児童の学習意欲だけでなく、様々な人に触れる中で生活態度も前向きになってきたように感じる。 ・地域の方にいろいろな場面でお世話になっている。児童に感謝の気持ちや尊敬の念を培ったり、渡津のよさや魅力を発見したりする上で、よい機会となったと考える。今後もさらなる地域の教育資源の開発や有効活用に向けていきたい。	B	B
		体験活動を充実させる。	地域の教育資源を活用して自然体験、社会体験等に取り組む。							4.0	・総合的な学習や生活科、クラブ活動などを中心に、地域の教育資源を活用しての自然体験や社会体験などをできるだけ多く取り入れた。また、年間指導計画に基づいて、地域の講師を招き、学校菜園での栽培活動にも力を入れた。 ・5年生での自然の家宿泊研修、教育委員会との連携による通学宿舎やJPX授業支援プログラムへの参加など、地域の教育力を生かした活動も実施し、成果を上げることができた。 ・今後、体験活動のさらなる見直し、精選等が必要である。	B	
学校関係者評価	考 察			評 価		改善策等		<p>・保護者や地域に開かれた学校、足を運びやすい学校づくりをさらに進めていくために、授業公開日や学校便り、PTA運営委員会、学校関係者評価等を活用し、情報の積極的な発信と保護者や地域の要望等の受信に心がける。また、地域の恵まれた教育資源「ひとものこと」の発掘や活用をさらに進め、地域のよさや魅力に触れさせることで、ふるさとを愛し、貢献できる児童を育成していく。</p>					
				B									